

【本校を卒業した生徒のインタビュー記事が広報釜石に掲載されました！】

今年本校を卒業した、理数科卒 岩手大学農学部 藤井俊介さん、普通科卒 釜石市役所 佐々木里桜さんのインタビュー記事が「広報釜石」に掲載されました。

SSHの活動を通して自身の将来が深まっていく、そんなリアルな過程が語られています。2人の活動に協力をいただいた地域みなさま、ありがとうございました！是非ご一読ください！



釜石高校 普通科 佐々木里桜さん
(釜石市役所へ就職)

人との繋がりを大切に
する職員に

唐丹町にはどんな印象を持ちましたか？
2年生の1年間をかけて研究したのですが、地域に入ってお話を伺う中で、唐丹の魅力を見ることができ、素敵なところだなと感じました。インタビューで出てきた「唐丹は町の町が強い」という言葉が印象に残っており、これからは唐丹の強いまちが続いていったらいいなと感じました。

「どんな職を目指していますか？」との繋がりを大切にしたいです。
— 高校生活の思い出は？
吹奏楽部に所属し、定期演奏会などで少し市民の皆さんに笑顔になってきました。小学4年生から指揮虎舞に参加しており、笛を吹くことに親しんでいたため、中学校から吹奏楽部に入りフルートとピッコロを吹くようになったのも自然な流れだったと感じて

厳しくも楽しい思い出があった吹奏楽部練習ホールにて



釜石高校 理数科 藤井俊介さん
(岩手大学農学部 森林科学科へ進学)

森林資源を地域の力に

— 森林を勉強したいと思ったきっかけは？
釜石高校はSSHに指定されており、その中で釜石地方森林組合のお話を聞いたことや、グループ研究のテーマに甲子柿を選んだことがきっかけです。実は甲子柿は年間8トンほど商品にならず廃棄されていますが、勉強してみたいと思いエタノールとして活用する方法があるという知り、そう思ったことを調べるうちに、林地残材にも興味を持ち、木質バイオマスとしてエネルギーにできるなど、森林にはさらなる可能性があると知ったので進路を選びました。

— 高校生活の思い出は？
印象深いのは高校から始めた自治です。それまでは射的のついで射当の自分が最高記録でしたが、このまま終わらたくない、指導してくれたコーチにも恩返しをしたいという思いで練習に励んで、最後の高橋体で覚悟(志)で12射中射当で、最高の終わりを迎えることができました。最初は「勉強と部活のバランスがとれなかった」と思って入部したのですが、引退後に自分の力を買ってほしいなと思っていました。

— 今後の将来を目指していますか？
将来は釜石に戻り、学んだことを生かして林地残材などの資源活用を指導できるような人材になりたいです。釜石は育ってきた土地ということももちろんあります。面積の9割を占める森林を活用したい、自然がいっぱいというところなのもいいなという思いもあります。

それぞれの未来へ

4月はずくの入学適いなた学校の友人と職員、新しい生活を始める1年と特別な月。抱、高
校卒業は一人暮らしを始めたり、社会人として責任ある立場になりと大卒を卒業した人も、年
市内の高校から23人卒業、それぞれの進路へ向かう。さまざまな道を歩み、一歩み出
した彼らに話を聞いた。

- 2018(平成30)年.....15歳
- 市制施行50周年
- 釜石海浜防波堤完成
- 釜石編入(復興スタジアムオープン)
- 2019(平成31)令和1年.....16歳
- 高校へ入学
- 三陸沖津波(市内区間、東北橋断目)
- 新車道釜石田巻(全線 開通)
- 五等号(令和へ)
- ラグビーワールドカップ2019開催
- 2021(令和3)年.....18歳
- 東日本大震災から10年目を迎える
- 2022(令和4)年.....19歳
- 高校卒業